

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B2202-4		事務事業名		文化財環境整備事業		事業期間		昭和63年度以前	～	令和8年度以降						
実施計画事業																		
実施計画事業以外の事業		○		担当部		教育委員会事務局		担当課・担当係		文化財課文化財係								
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編	基本施策	22	展開方向	2	事業・予算区分	施設整備系事業	款	10	項	5	目	6	大	3	中	3
	根拠法令・個別計画	文化財保護法・文化財保護条例						対象 (何・誰を対象に)	市管理の文化財(大山廃寺跡、高根遺跡、岩崎清流亭の藤、大草マメナシ自生地、切支丹灯笼、甲屋敷古墳、小牧小学校校庭のクロマツ)									
	目的 (何のために)	小牧の文化財を保存・活用することにより、歴史を生かした魅力ある個性豊かな街づくりに寄与することができる。						内容 (どのような方法で)	○令和5年度の実施内容 ・市が管理者となっている文化財の必要な整備を行った。 ・県指定天然記念物「大草のマメナシ自生地」において、除草などの軽作業を、国史跡「小牧山」において、土砂除去などの作業を環境整備作業員が行った。 ・県指定天然記念物「岩崎清流亭の藤」において、東海農政局による新木津用水路改修事業に伴い支障となる藤棚を撤去した。 ・市道に設置していた「清須道起点」の標柱が、隣接する民地の開発に伴って支障となることから、撤去した。									

(2)事業費

事業費	項目	単位等	R2	R3	R4	R5	R6	
			直接経費	決算額	千円	3,036	354	8,724
	財源	一般財源						
		国・県支出金		0	0	0		
		その他		0	0	0		
		計(A)	3,036	354	8,724	7,422		
		対前年比	%	—	11.66%	2,464.41%	85.08%	
		予算額	千円	2,400	3,442	1,639	9,375	2,133
	人件費	正規職員	人	0.07	0.03	0.15	0.1	
		正規職員(平均賃金)	千円	524	225	1,123	749	
		その他職員	人					
		その他職員(時給×時間)	千円					
		計(B)	千円	524	225	1,123	749	
		事業費合計(C=A+B)	千円	3,560	579	9,847	8,171	

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	22	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	指定文化財の件数				件	↗	44	43
展開方向	2	2	講座や展示、ワークショップ等への参加者数		人	↗	37,137	38,181			
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	市管理の文化財の適切な保存	件	目標	-	-	-	-	-
				実績	7	7	7	7	
	活動指標	環境整備の実施場所		目標	-	-	-	-	-
				実績	6	3	2	4	
				目標					
				実績					
	単位あたり事業費	受益者数(a)		人	-	-	-	-	-
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	-	-	-	-	-

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持(改善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの				
	事業の達成状況と課題	市管理の文化財(大山廃寺跡、高根遺跡、岩崎清流亭の藤、大草マメナシ自生地、切支丹灯笼、甲屋敷古墳、小牧小学校校庭のクロマツ)の保存活用を促進するため、文化財所在地の環境整備を行った。	今後の実施内容・今後の改善内容	<p>今後も必要に応じて、市管理の文化財の環境整備を行う。県の天然記念物である「大草のマメナシ自生地」は、民間企業や市民団体、大学等と連携して維持管理・保存・活用を行えるよう、関係者と引き続き調整する。</p> <p>県の天然記念物である「岩崎清流亭の藤」は、木津用水路改修後に、再び文化財として市民に親しまれるような藤棚の再整備と維持管理に向けて、国や管理組合と調整する。</p>			
	改善の有無	無	千円	節	細節	細々節	
これまでの改善内容		事務事業評価額					

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

		評価項目	評価結果	評価結果を判断した理由
事業分析	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	市管理の文化財に係る事業は、行政が実施する必要がある。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある	適正な管理が行われず、文化財を後世に残すことができない。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	大草のマメナシ自生地については、その管理の一部についてボランティア団体との協働を検討しているが、まだ団体が結成されていないので暫くは、市予算で事業費を確保する必要がある。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	シルバー人材センターを活用した除草などは既に実施している。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	文化財環境整備は特定の受益者がおらず、負担を求める先がないため適正である。